

コアニチドリ

Amitostigma kinoshitae (Makino) Schltr.

ラン科

絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

全国的にもきわめて稀産の種類で、報告されているのは1産地のみである。(現況:R-)

形態

本県に産するヒナラン属の2種のうちのひとつで、類似種はヒナランである。ヒナランとの相違点は、広線形の葉が1~2枚茎を抱いて着くこと、紅色~白色の小花を花序に1~5個着けることである。ヒナランの場合には葉が広披針形~楕円形であることと、花序には淡紫色の小花が5~15個着く。

国内分布

北海道、東北、北陸、さらに南千島に分布。

県内分布

加賀中央区。

生態など

岩上に着生する多年生草本で、開花期は6~8月。花後、花序の先端にむかごができ、脱落して独立株となる。

生育環境

多雪地の岩上に生育。多雪地域に分布域がある。

危険要因

園芸採取、自然遷移、産地局限。

特記事項

園芸採取が大きな危険要因である。



小野ふみゑ・2007年6月17日・加賀

分布図はありません。